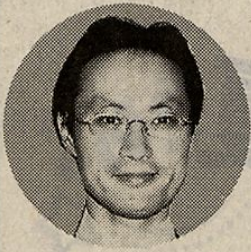


潮流

七月二十五日に青少年育成推進本部は、年末に改定する青少年育成施策大綱の骨子を決定しました。今回の改定では子どもを育てる家庭にも支援の光を当て、非営利組織(NPO)や教育・福祉関連企業の協力も得ながら、保護者に積極的に働きかけることにも力を入れています。



青少年育成推進本部副理事長、
鳥取県中部医師会副会長
松田 隆

松田 隆

その中で、核家族化や共働き世帯が増えたこと、子どもと両親とが一緒に過ごす時間が減り、家庭の子どもを育てる役割や教育力が低下し、子どもの不登校やひきこもり、ニートなどにつながっていることが指摘され

育ち直り

ています。そして、その対応策として、地方自治体、学校、NPOなど地域のネットワークを活用し、関係機関が協力して、

「育て直し」を支援する方針を新たに打ち出しています。

幼少期の家庭環境すなわち生育歴がその後の子どもの成長過程に大きく影響することから「育て直し」が必要とされてきています。いままでは幼少期の家庭環境が大切であり、ニートなどにつながっていることが指摘されたが、国の施策の中で、

家庭にまで踏み込んで、乳幼児期の教育を重視したものはあまりなかったと思います。子どもの問題は、決して子どもだけの問題ではなく、大人の抱える問題が子どもを通してきているのではないかと思

います。そういった意味で、子どもだけにやり直しを押し付ける「育て直し」ではなく、大人自らが振り返って反省する「育ち直り」も必要だと思います。今年五月に、この大綱の策定の参考とするため、全国から募集した意見をみると、子どもたちはいろいろな人との出会いや一言から、一人で生きていくのではないことを実感し、大きく勇気づけられ成長していくことも書かれています。一方、教育再生懇談会の冒頭には「活力ある日本、世界に貢献する日本を支えるのは人である」と書かれ、人を育てる教育に重点を置くことが不可欠です。先日、赤ちゃんとのふれあいのの中で、ある中学生が「赤ちゃんとおふれあうことで心が癒やされる」ということを言っていました。まさしく、赤ちゃんには人を素直な気持ちにさせ、癒やす能力があるのではないかと思えます。お母さんが母乳をあげたり、オムツを替えたり、周りの人から手助けしてもらわなければ生きていけない赤ちゃんとおふれあひ、どんな人にも、十分な効果が得られる取り組みができると思います。政府は、この新しい「青少年育成施策大綱」策定に向けた意見を八月二十四日まで募集しています。子どもの未来、ひいては将来の日本を担う施策に対して、ぜひ原点を見つめなおし、自ひ多くの皆さんが意見を述べて「役立ち感」を実感し、自尊感情を高め、

(倉吉市)